

ご利用になる前に必ずお読みください

このPDFファイルの内容についてのご質問・お問い合わせは株式会社アスキー・メディアワークスでは一切お受けできません。ご自身の責任においてご利用ください。



この作品は、クリエイティブ・コモンズの表示-非営利-継承 2.1 日本ライセンスの下でライセンスされています。この使用許諾条件を見るには、<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/>をチェックするか、クリエイティブ・コモンズに郵便にてお問い合わせください。住所は：171 Second Street, Suite 300, San Francisco, California 94105, USA です。

このファイルをクリエイティブ・コモンズの表示-非営利-継承 2.1 日本ライセンスに基づいて利用する際には、下記クレジットを必ず作品や配布物に表示する必要があります。

クレジット：

- 文/vine_user (ブログ『独学 Linux』 http://blog.livedoor.jp/vine_user/)
- まんが/瀬尾浩史
- デザイン/シオズミタロウ
- 初出/株式会社アスキー・メディアワークス「Ubuntu Magazine Japan vol.03」(<http://ubuntu.asciimw.jp/>) 2010年2月23日発行

気になるLinuxのご近所さんをちょっと拝見!

Fedora 12

●文/vine_user (ブログ「独学Linux」)



▲Fedoraのテーマカラーはブルー。スッキリとしたデスクトップが好印象なのだ。

FedoraとUbuntu? どう違う?

気になったら試す!
それがLinuxの利点

いまやUbuntuはデスクトップLinuxの代表格といえるだろう。しかし、Linuxについての知識が増してくると、何やら他にもいろいろな種類があるということがわかってきて、他のディストリビューションやその特色についても知りたくなるとするのが人情だ。今回は、Ubuntuに次ぐ人気ディストリである「Fedora (フェドラー)」を例に、Ubuntuとの違いを見ていこう。用途や好みに応じてディストリを選択できるのもLinuxの利点の一つ。デスクトップLinuxには、自分にとって使いやすいものが選べる自由もあるのだ。

Fedora Project

公式サイトはこちら!

▲FedoraにはUbuntuのようなローカルチームがなく、日本語での情報は少なめ。非公式だが「Fedora Users Forum」(<http://fedora.forums-free.com/>)なども活用してほしい。



<http://fedoraproject.org/ja/>

Fedoraのバージョンとサポート

バージョン 11	リリース日 2009年6月9日
コードネーム Leonidas	サポート期限 2010年6月まで
バージョン 12	リリース日 2009年11月17日
コードネーム Constantine	サポート期限 2010年12月まで

▲Fedoraのコードネームはコミュニティの投票で決まる。11と12のコードネームはミシガン州の地名つながりだ。

Red Hatの系統に Ubuntu Linux

Ubuntuと同様に、デスクトップ用途で利用でき、無償で入手できるディストリの一つ。約半年に1回のペースで最新バージョンが公開されており、現時点の最新バージョンはFedora 12だ。2003年末に開発が終了した「RedHat Linux」の後継に相当するディストリで、米Red Hat社の支援を受けているものの、現在は「Fedora Project」というコミュニティが主体となって開発されている。Red Hat社が提供している有料サポートを含む企業用ディストリ「RedHat Enterprise Linux (RHEL)」の検証という役割も担っている。サポート期間は、それぞれ2つ先のバージョンがリリースされてから1ヵ月後まで(つまり約13ヵ月)と規定されており、UbuntuのようなLTS(長期

最新機能を積極的に採用する

Red HatにとってFedoraは実験的な役割を担うディストリであり、その影響から最新機能を積極的に採用しているのが特徴だ。サーバ環境では仮想化の機能を強化していたり、デスクトップ環境でも、リリース時点で最新バージョンのアプリケーションが採用される。日本語入力システムをSCIMからIBusへ変更したのもFedoraの方がUbuntuよりも先だった。その反面、リリース段階で不具合が多いのも事実で、インストール直後のアップデートでは多くのパッケージを更新しなければならぬこともある。リリース版DVDのFedora 9では、正常にインストールしても日本語入力ができない状態だった。このようなところが、初心者には難しいという印象を与えている原因の一つになっているかもしれない。

CHECK 1
主要なアプリは
ほとんど同じだ!

UbuntuとFedoraは、起動画面やデスクトップの背景画像こそ異なるものの、同じデスクトップ環境(GNOME)を採用しているため、インストールしてしまえばそれほど多くの違いはない。しかし、ベースとなっているディストリや、ディストリ独自のポリシーから、いくつか異なる点もある。ここではデスクトップLinuxユーザーの視点から、執筆時点でのそれぞれの最新バージョンを比較し

UbuntuとFedoraの環境を比較!

システム&アプリ	Ubuntu 9.10	Fedora 12
コードネーム	Karmic Koala	Constantine
カーネルのバージョン	Kernel 2.6.31	Kernel 2.6.31
ブートアップシステム	Upstart	Plymouth
デスクトップ環境	Gnome 2.28	Gnome 2.28
Xウィンドウシステム	X Server 1.6	X Server 1.7
セキュリティ機能	AppArmor	SELinux
バグ報告ツール	Appport	ABRT
パッケージ管理(GUI)	Synaptic, SoftwareCenter	PackageKit
パッケージ管理(コマンド)	apt, aptitude	yum
日本語入力システム	iBus	iBus
オフィスソフト	OpenOffice.org 3.1	OpenOffice.org 3.1
ウェブブラウザ	Firefox 3.5	Firefox 3.5
メールクライアント	Evolution	Evolution
メッセージ	Empathy	Empathy

▲デスクトップユーザとして頻繁に使うようなアプリはほとんど同じ。システムの管理方法には違いがある。

CHECK 2
インストール
メディアが違う!

Fedoraの場合、多言語対応のため、日本語に特化したバージョンは存在しない。また、Ubuntuのようなデスクトップ版とサーバー版の区別もない。公式サイトで配布されるのは、デスクトップ用LiveCDと、インストール専用LiveCD版だけだ。「Fedora Spin」というプロジェクトではLXDE版のLiveCDも配布されている。LiveCD版では、Ubuntuと同様に、デスクトップ上のアイコンからインストールを開始する。なお、LiveCD版では「OpenOffice.org」はインストールされない。

CHECK 3
管理者ユーザの
扱いが違う!

Ubuntuのデスクトップ版は、安全のため、管理者ユーザ(root)のパスワードを設定しないため、rootではログインできない。一方、Fedoraでは、インストール時にrootパスワードを設定する必要があるのである。インストールのステップが複雑なのは、これが原因だろう。Fedoraでは、管理者権限でコマンドを実行するには、「sudo」ではなく、「su」コマンドを使って、rootパスワードでrootになってから行うようになっている。インストール時だけでなく、管理者での操作全般においてrootの存在に注意しよう。

CHECK 4
パッケージの
管理方法が違う!

Ubuntuの「Synaptic」パッケージ・マネージャに相当するのは、GNOMEメニユーの「システム」・「管理」にある「Add/Remove Software」で、正確には「PackageKit」というプログラムだ。左側のサイドバーのカテゴリを選べば、そのカテゴリに属するパッケージの一覧が表示される。Ubuntuの「Synaptic」パッケージ・マネージャと似たような使い勝手なので迷うこともないだろう。一方、コマンドラインでパッケージを追加するには、「apt-get」ではなく「su」コマンドでrootになってから「yum」というコマンドを使う。なお、パッケージの拡張子はUbuntuで使わ

管理コマンドも違うのだ!

Ubuntu `$ sudo apt-get install (パッケージ名)`

Fedora `# yum install (パッケージ名)`

yumコマンドのオプション

install	パッケージのインストール
reinstall	パッケージの再インストール
erase	パッケージの削除
update	アップデート
upgrade	アップグレード
clean	キャッシュの削除
groupinstall	パッケージグループのインストール
grouplist	パッケージグループのリストを表示
groupremove	パッケージグループの削除
deplist	依存パッケージのリストを表示
provides	関連語によるパッケージの検索

▲Ubuntuでおなじみの「apt-get」は「sudo apt-get」と使われることが多いが、Fedoraではrootになってから「yum」が使われる。

PackageKit



▲[システム]-[管理]にある「Add/Remove Software」で起動。検索窓にキーワードを入力して、該当するパッケージをインストールする。

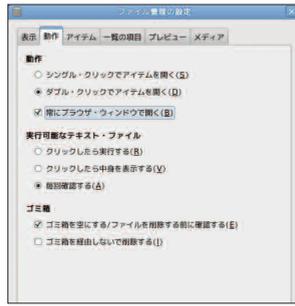
れる「deb」ではなく、「rpm」となっており、アップデートには「drpm」という差分パッケージが使われる。ネットでダウンロードしたrpmファイルは、Ubuntuと同様に「パッケージ・インストーラ」でインストールできる。debパッケージを単体でインストールするのは同じだ。

スクリーンロックの解除



▲設定で「スクリーンセーバーを起動したら画面をロックする」を無効にすればいい。

ファイルブラウザの設定



■FedoraもUbuntuと同じ「Nautilus」ファイルブラウザだが初期設定が違う。

また、初期設定ではスクリーンセーバーが起動すると、復帰の際にスクリーンロックがかかる。Ubuntuから移行した場合、こうしたわずかな設定の違いにとまどうこともあるかもしれない。

Fedoraの場合、ファイルブラウザでサブフォルダを開くと、複数のウィンドウが開いてしまう。これをUbuntuと同様に、常に1つのウィンドウで開くには、ファイルブラウザのメニューから「編集」・「設定」を開いて、動作のタブで「常にブラウザ・ウィンドウで開く」という項目にチェックを入れておこう。

CHECK 5
初期設定の動作が
ちよつと違う！



コントロールセンター

■パネルのユーザ名をクリックして「システムの設定」で開く。



論理ボリュームの管理

■論理ボリュームのフォーマットやサイズの変更ができる管理ツール。



バグ報告ツール (ABRT)

■発生したバグがすでにバグ報告済みのものなのかどうかもわかる。

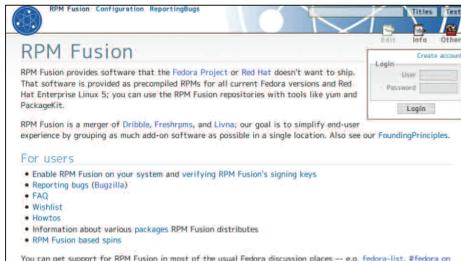
Fedoraには、Ubuntuにはない便利な機能がいくつもある。「コントロールセンター」は「システム」・「設定」と「システム」・「管理」に含まれるアプリをまとめてたものだ。Ubuntuでもコマンドで実行できるが、Fedoraではデフォルトでメニューに入っている。「論理ボリュームの管理」は、扱いにくい論理領域をGUIで手軽に調整できるもので、これはRed Hat系ならではの機能だ。また、Fedora 12で新たに加わったバグ報告ツール「ABRT」は、バグが発見された際、簡単にバグ報告ができるツールで、バグ報告を送信するには「Bugzilla」へのアカウント登録が必要だ。Ubuntuの「Appport」に相当

するが、そのバグが報告済みの場合、情報を表示してくれるのが特徴だ。ABRTは、開発者がバグを追跡し、情報をすばやく集めることを容易にしてくれる非常に便利なツールで、オープンソースコミュニティ全体がこのツールから恩恵を受けられる。また、普通のユーザーにとっても、自分で集めるのが困難な多くの情報を提供してくれるし、アプリケーションのクラッシュを検知して、そのクラッシュに関する詳しい情報を集め、ユーザがその情報をBugzillaに報告するのを助けてくれたりする。ユーザがいちいちBugzillaのサイトに行ったり、電子メールで報告したりする必要もない。オープンソースコミュニティにとって、バグ報告は貴重な財産なので、積極的に活用してほしい。

また、初期設定ではスクリーンセーバーが起動すると、復帰の際にスクリーンロックがかかる。Ubuntuから移行した場合、こうしたわずかな設定の違いにとまどうこともあるかもしれない。

CHECK 6
独自のシステム
管理ツール

RPM Fusion



■Fedora Projectでは配布されないfree/nonfreeのパッケージはこちらで入手する。リポジトリとして追加可能だ。

<http://rpmfusion.org/>

「Atipms」というサードパーティーもある。

Ubuntuでは、グラフィックのプロプライエタリなドライバや動画のコーデックなどはFedoraやUbuntuのリポジトリに含まれていない。Fedoraの場合、これらのパッケージはサードパーティーの「RPM Fusion」というサイトで配布されており、リポジトリ追加用パッケージをインストールすることで、リポジトリを有効にできる。フリーとノンフリーに分かれており、プロプライエタリなものにはノンフリーに含まれる。RPM Fusion以外に「libadecss」を配布している「Atipms」というサードパーティーもある。

CHECK 7
サードパーティーの
リポジトリ

Moblin環境も手軽に導入！



■インストールは簡単で、下記のコマンドを実行するだけで。
yum groupinstall "Moblin デスクトップ環境"

Moblinを試せるのが魅力だ。

Fedora 12では、コマンドひとつでネットブック用OSのMoblinの機能も導入できる。インストール後、ログイン画面のセッションの選択で「Moblin」を選択してログインすれば、Moblinと同じデスクトップが現れる。ただし、起動時間は通常のFedoraと同じなので、Moblinの特徴の一つである高速起動の利点は生かせない。また、Moblinデスクトップ環境では、ログアウトの概念がないため、終了するには電源ボタンでシャットダウンする必要があるが、手軽にMoblinを試せるのが魅力だ。

CHECK 8
Moblin
デスクトップ環境が！

FedoraとUbuntuどう違う？

仮想マシンで挑戦！



VirtualBoxのような仮想化ソフトを使えば気軽にトライできるぞ。

インストール手順は意外とカンタンだ！ LiveCDからインストールすると、ワープロソフトの「Abiword」、表計算ソフト「Gnumeric」という軽量のオフィスツールしか入らない。Ubuntuと同様に「OpenOffice.org」を使いたい場合は、DVD版からインストールする必要がある。また、DVD版では、インストールするパッケージを選択することができるというメリットがあるので、ここではDVD版からのインストール方法を紹介しておこう。

インストールメディアは、Ubuntuと同様にFedora Projectでも「Fedora-12-i386-DVD.iso」というISOイメージが配布されているので、このファイルからDVDを作成しよう。DVDを挿入し、光学ドライブから起動したら、インストール開始だ。なお、DVD版ではいきなりインストールが始まるので、事前にLiveCDで起動確認をしておいたほうがいい。

インストール手順は意外とカンタンだ！

Install NOW!!

Fedora12をインストールしてみよう!!!

使用言語の選択



ここで「日本語」を選択すれば、以後は日本語で表示され、日本語環境がインストールされる。

インストーラ開始



最初の画面ではFedoraのロゴが表示されるだけ。右下の「Next」ボタンをクリックして、次のページへ進む。

メディアチェック



インストールメディアのテストをするか確認する画面。ここは時間がかかるので、スキップしてよい。

DVDで起動する



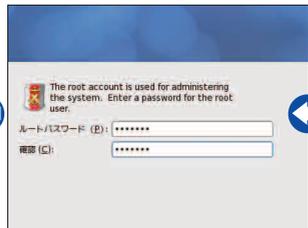
起動直後の画面。「Install or upgrade an existing system」を選択してインストーラを起動する。

インストール領域



これは、HDDの空き領域にインストールする場合。Ubuntuと同様に。パーティションのカスタマイズも可能だ。

rootパスワード設定



Ubuntuにはない、管理者(root)パスワードの設定。2つの入力欄に同じものを入力しておこう。忘れないように！

タイムゾーン



タイムゾーンの設定画面。日本なら「アジア/東京」を選択し、左下のチェックボックスはチェックを外しておく。

使用キーボード



キーボードを選択する。通常のキーボードであれば「日本語」を選択すれば、問題ない。

「ようこそ」の画面表示



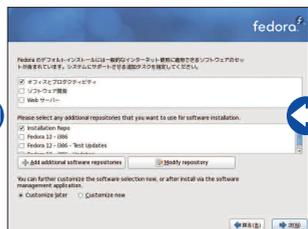
インストールしたHDDから再起動した後の初期画面。そのまま「進む」ボタンをクリック。

インストール終了



これでインストール終了。下の「再起動」をクリックして、ユーザの設定に移ろう。

パッケージを選択



ここでインストールするパッケージを選択する。通常のデスクトップ用途なら初期設定のままでいいだろう。

フォーマットの確認



フォーマットの確認。間違いがなければ、「変更をディスクに書き込む」をクリックして進む。

Fedoraのログイン画面



次回起動時からはこのログイン画面が最初に現れるようになる。Welcome to the Fedora World!!

ハードウェア情報の送信



ハードウェアプロフィールの送信確認。ここは、「いいえ、送信しません」でもよい。

ユーザの作成



ライセンス確認後の画面。rootとは別の、ログインに使うユーザ名とパスワードを入力する。